

2005(平成17)年  
4月1日発行

第39号

## 沖縄国際大学図書館

沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号

〒901-2701

TEL (098)892-1111(代)内線2102・2104

FAX (098)893-3274・0019



# びいご

## 沖縄国際大学図書館報

### 目 次

「自分探し」としての学びを 総合文化学部教授 玉城康雄.....	1 ~ 2
「いつもの」図書館 法学部講師 上江洲純子.....	3
著作権と公共性 経済学部講師 松崎大介.....	4
大学図書館の魅力 産業情報学部講師 天野敦央.....	5
寄り道・図書館・知的興奮 総合文化学部講師 藤波潔.....	6
大学図書館を活用しよう 総合文化学部助教授 山口真也.....	7
図書館を利用して 法学部法律学科4年次 上間司.....	8
図書館とは 産業情報学部 企業システム学科2年次 大城紅実.....	8
図書館という名の学び場 総合文化学部 人間福祉学科4年次 茂上隆行.....	8
大学院での仲間との出会い 地域産業研究科 地域産業専攻2年次 當間優紀.....	9
自分流の図書館活用法してみませんか? 琉球芸能を通じて 地域文化研究科 南島文化専攻2年次 宮城茂雄.....	10
図書紹介『頭がいい人、悪い人の話し方』 法学部助教授 脳阪明紀.....	11
情報処理軽井沢セミナーに参加して 図書館運用係 當山仁健.....	12
学科長が新生に薦める5冊(種類)の本.....	13
図書館利用オリエンテーション.....	14
平成16年度 文献検索ガイダンス.....	14
平成16年度 論文・エッセイ.....	15
社会人特別入学生として思うこと 総合文化学部日本文化学科4年次 真栄城絹枝.....	16 ~ 17
想像してみてください 整理係 友利祐子.....	17
平成16年度私立大学等研究設備整備費等補助金交付決定 .....	18
稲福日出夫館長が講演(沖縄県大学図書館協議会総会).....	18
平成16年度寄贈図書(個人).....	18
本学図書館にて職場体験学習・研修.....	19
米軍ヘリ墜落により本館事務局 図書館に仮住まい.....	19
図書館見学・視察一覧(平成16年度).....	19
平成15年度図書館統計 .....	20
平成15年度図書館利用状況 .....	21 ~ 22
図書委員会の動向/人の動き.....	23
図書館短信.....	24
編集後記.....	24



## 「自分探し」としての学びを

総合文化学部教授 玉城 康雄

生涯学習社会といわれて久しい。が、生きる意味を見だし、自分の人生を創造していくための「学び」を身につけている人は、それほど多いとは思えない。

学ぶということは、単に知識・技能を習得することではない。「学ぶ」ということは本来、人生への問いを発することであり、自分自身を見つめ直し、新たな自己へと変容していくことである。学歴や資格を得るための「勉強」は単なる「答え」を求めているにすぎない。そこで、従来の「学習観」を問い直し、人生を意味深く豊かに生きていくために、これからの「学び」について考えてみたい。

学校教育という世界の奇妙なことは、何を論議しても全てがいつのまにか「何を教えるべきか」の話になってしまうことである。「学ぶとは、そもそもどういうことなのか」という学習論を問題にしてもそうなのである。

学校は、学ぶ場である。すぐれて「学び方を学ぶ」場所なのである。「学ぶ」とは、人が、その生涯を通して、求めつづけるきわめて人間的な営みである。学校教育という教師の下での学習は、長い人生における学びに比べれば、ごく限られている。人は、教師も教材も与えられずに、学校で過ごす時の何倍もの時間を自ら学び人生を切り開いていかなければならない。

この際、学校を生涯を通して学びつづけるための準備をする場と考えてはどうか。となると、学校で身につけなければならないことは、自ずから決まってくる。それは、新しい知識や技能を吸収できることは無論のこと、自分で何を学ぶべきか選択できることであり、自分自身の学びが正しいか否かを判断できることである。そして最終的には、人間としての生き方・在り方を模索していくこと

のできる能力をつけることではなからうか。

特に、自分が何を学ぶべきかを自分自身で選ぶ。これは「学ぶということ」の原点であるにもかかわらず、その能力はほとんど獲得されていない状況である。

いま日本の教育制度、とりわけ学校教育が抱えている最深の問題は、「どう生きるか」という人間にとって最も本質的なことを問い、求めるいとまを子どもたちに与えていないことである。成績順位、偏差値で子どもたちの将来を軽々しく決め、<いのちの自然>に反することを平気で行っているということである。

人間「どう生きるか」ということは、おおよそ二つの問いから成り立つ。一つは、「自分とは何か」という内から湧き出てくる根源的な自己への問いかけである。そして、いま一つは自分がいかなる社会的役割を担い、日々どのように暮らしていくか、自らの意志で選択していくことである。

ところが、子どもたちは親や教師が選んだコースをたどることを当然のごとく考えてしまっている。すべてが「なりゆき」まかせ。行くべき学校、学校で学ぶべきこと、職業選択、結婚相手にいたるまで、他人まかせになってしまっていないか。

なぜ、そうってしまったのか。一つには「標準的知識・技能の伝達」が学校の使命だという風潮にあるのではないか。「標準」であれば、そこに本人の選ぶ余地はほとんどない。「伝達」であれば、受身にならざるを得ない。今日の学校教育のあり方こそが、思考を停止させ時流に押し流される子どもたちを生み出しているのではないか。

受験体制のもと、つねに「正解」を求め、結果さえよければ全てがよしとされる。プロセスは軽視されていく。親や教師が、それをたたえる。と

なると、ものごとの背後にあるものを深く見すえ、多角的に考えていく力など育つはずがない。すべての事柄を単純にわりきってしまう傾向を克服し、様々な視点から本質的にものごとを捉えかえす精神をはぐくむ教育がいま問われている。「学ぶ」ということは、「解答を求めることではなく、問いを生きつづけること」である。

「学び」とは、学びがいのある世界を求めて少しずつ経験の世界をひろげていく「自分探しの旅」である。「教える」ということは、どこまでも子どもの「学び」につきあうことであり、それこそ

子どもの「自分づくり」に対する手助けにすぎない。子どもが「なってよかったと思える“私”」になってもらうべく、働きかける営みが教育なのである。

「人生とは自分への旅だ」と言ったのは、ヘルマン・ヘッセである。確かに、いかなる人も自分で自分を創っていくのである。その意味で人の一生は、自画像を描く画家、自己の像を刻む彫刻家に喩えられる。人間についての興味は、なぜ、彼が彼になったのか。どうして、彼女が彼女になったのか。それに尽きる。「人生とは、まさにその人の作品」なのである。

### 「心の装い」としての読書

「おしゃれ」この言葉は、日々の生活には不必要で余分なものと考えられがちである。たしかに、華美で奢侈をきわめるものであれば、そうだとはいえる。が、質素で己の品性を高めるためのおしゃれは、人間として当然の「たしなみ」であろう。

身を正し、清々しい装いをすると、自ずから心も引き締まってくる。さもしいことを考えたり、だらしない振る舞いができなくなる。

つまり、「心の襟を正す」ひとつの手だてが化粧本来の精神であろう。なにも姿・形のみを美しく見せかけるためのものではない。心を飾る一種の知恵なのである。

ところで、外からの変身ではなく、内からのおしゃれで、人間的にいつそう大きな変化をもたらす方法はないか。精神美容としての「読書」がある。今の世の中、本など読まなくても生きて行ける。だが、素顔ではあ

まりにも殺風景ではないか。そう思ったとき、人は誰でも書を求めるようになる。

不思議なことに、読書を続けていると、すばらしい効果があらわれる。まず、若々しくなる。どことなく知的雰囲気を持たせられるようになる。ついには、顔立ちそのものまでが美しくなる。まさに心のおしゃれである。

このごろ、女性といわず男の人までが化粧品の選択に目の色を変える。そのくせ、精神の美容にはそれほど関心がない。たしかに、読書はおしろいを塗るようにはいかない。いかにもまどろっこしい。

ところが、「心の装い」としての読書は、おしろいと違って洗っても、こすっても落ちたり、くずれたりすることがない。読書は、人を静謐にし人確かにする。せめて1日1時間、自分の専攻する分野とまったく関わりのない読書を楽しみたいものである。

玉城 康雄



## 「いつもの」図書館

法学部講師 上江洲 純子

大学院生の頃、締切りの迫った課題や論文を仕上げるときは、図書館の個室を利用することが多かった。個室には必要な文献をいくらかでも持ち込めるので便利だったというのが大きな理由だが、あの薄暗く、迷路のような大学院の研究室にいて、近づく締切りに追われて足掻いている大学院生たちの怨念にも似た空気に押し潰されそうな気がして、それから逃れたかったというのもある。その点図書館の個室は、大学院生が享受できるささやかな特権の一つで、独りになれる空間が確保できるし、文献もPCも持ち込める。肩の力を抜きたいときは、個室の窓から眼下に見えるピロティを行き交う人々を眺めればいい。

そんな訳で、大学の図書館に入り浸っていた時間はかなりのものになるが、入り浸る時間に比例して、図書館がどんどん居心地のよい場所になっていったのを覚えている。日々通っていると、いつも顔を合わせるスタッフや馴染みの常連さんが分かってくるし、個室も、検索端末機やコピー機も、そして頻りに利用する書架も、どの時間帯が利用しやすいか分かってくる。そのうち図書館のあちこちに、私にとっての「いつもの〇〇」が増えていった。いつもの席に座って文献を検索し、いつものコピー機で資料をコピーしたら、いつもの部屋で、コピーした資料やいつもの本を片手に机に向かうというような具合だ。

こうして日々お世話になった図書館だったが、就職するとまもなく、仕事に追われて忙しいことを理由に、めっきり行かなくなった。「いつもの部屋」や「いつもの席」も職場のそれに取って代わった。

そんな日々の中で再び出会ったのが、都立中央図書館である。この図書館は、東京のど真ん中にありながら、静かな環境の中で、住民の憩いの場ともなっている。幸運なことに、私はこの図書館のすぐそばで3年も暮らすことができたのだが、実は実際に足を踏み入れたのは東京生活も2年目に突入してからであった。勝手な思い込みだが、公共

の図書館は、大学の図書館と違って、ややもするとうるさく、所蔵内容も大学より劣ると思っていたのである。だから最初に足を踏み入れたとき、何気なく立ち寄ったその図書館の規模と充実度、それでいて公共図書館らしい明るさを兼ね備えている点に驚かされた。公園の敷地内にあることや場所柄も手伝って、家族連れや外国人が多いというのが特徴的だが、目を転じると学生からビジネスマン、散歩途中らしき老夫婦まで実に年齢層も幅広く、思い思いの場所で、読書や勉強、そして仕事に没頭している。もちろん、私の通っていた大学の図書館とは雰囲気もまるで違っていたが、ここにも誰かの「いつもの席」があるのだなと感じたものである。

そんな都立中央図書館と本学の図書館はどこか共通点がある。本学の図書館は大学の図書館でありながら、開放的で、地域に開かれたイメージを併せ持っている。地域の方が実際に利用している場面にも遭遇する。私自身は、大学の図書館に、どこか閉鎖的で入ると自然にしゃんとなる、そんなイメージを持っていたので(そんな雰囲気も好きなのだが)、オープンで明るい、まさに沖縄人気質の本学の図書館には、正直驚いた。

そういう図書館だからこそ期待したい。ここを利用する全ての人が、自己の知的欲求を満たす場所として、そしていつまでも入り浸りたい場所として、本学の図書館を、彼らの「いつもの場所」の一つに加えてくれたらなんと嬉しいことではないか。



都立中央図書館が所在する有栖川宮記念公園

## 著作権と公共性

経済学部講師 松崎大介

現在、多くの図書館では、文献の複写を行う場合、いくつかの手続きを踏まなければならない。これは図書館の書物に対する著作権保護のための方策なのだが、近年、この著作権保護に関していくつかの問題が明らかになってきている。

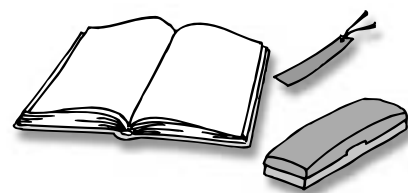
この問題の一つとして、例えば、図書館における電子ジャーナルの利用に関する問題が挙げられる。私は理論経済学を専門としているが、研究の上で電子ジャーナルの存在は極めて画期的なことだった。一般に電子ジャーナルは、今まで冊子体だった学術雑誌の内容がコンピューターの画面上で見ることができ、印刷も可能になるシステムのことを指す。比較的新しい研究や有名な雑誌であれば古典的な論文まで、クリック一つで簡単に手に入る環境は、一度慣れてしまうと手放せなくなるものだ。電子ジャーナルというシステムが始まる以前には、必要な文献が自分の学科の図書室や大学の中央図書館に無い場合は、大学内の他学科の図書室や他大学にまで行かなければならなかった。つまり、思いついた着想（ほとんどは破棄される）を1つ調べるためにも、大きなコストがかかっていたのだ。優秀な研究とは、初期の問題意識を強い形で永く持続できた研究か、その情熱がさめないうちに演算結果を出せた研究、のどちらかではないか、と個人的には思う。それゆえ、一瞬で既存文献を参照でき、初期の問題意識がさめないうちにある程度の見通しを与えてくれる電子ジャーナルには強い魅力を感じるのだ。しかし、現在はこれらの環境を利用するには、利用料金が非常に高い水準で決定されているという大きな問題点がある。

料金が非常に高いというのは、出版社側がその情報の独占的供給者であるという点が大きな理由の一つであろう。このような状況を所与としたとき、需要者側である1つ1つの大学は結託して交渉するという需要独占的な行動をとらざるを得なくなる。しかし、これは当面の一つの方策ではあるのだが、

双方とも歪な状況であることに変わりはない。本来、著作権や特許といった政府の創り出す独占の目的は、独占の下での利潤が無ければ新規の開発が行われないという事態を避けるためである。一方、ここで問題となっているのは、このような流通段階での強い独占形態の存在である。何故なら、これらの独占により、流通上に存在する中間組織が多くの利潤を得たとしても、それが情報の提供者の利益や新たな創作に直結しているとは限らないからだ。

今後、何らかの形でこれらの独占力を緩め競争を促進させる必要がある、と私は考える。さもなければ、既存の情報のもつ準公共財的な性質を十分活用できず、ある情報に触れることで新しく生み出されるであろう二次的な情報の芽を摘んでしまう恐れが強いからだ。また、流通段階での強い独占形態の存在は、必ずしも情報の提供者の利益につながるわけではなく、中間組織によるレントシーキングにのみ繋がっている可能性も大きい。よって、この独占の緩和という点に関して、何らかの新しい制度が必要であろう。

近年、様々な技術の発達により、既存の制度が非効率な状況に陥る例が幾つも見受けられる。元来、我々の社会制度というものは、常にその時点での工学技術の水準に束縛される側面が多分にあるからだ。それゆえ、我々経済学者は、新しい技術の進展とともに、新しい社会の枠組みを提案しつづける責務がある、と私は思っている。特に、これらの著作権とその公共性に対する問題に関しては、早急に分析をしていく必要があるだろう。





## 大学図書館の魅力

産業情報学部講師 天野 敦 央

大学の価値、それは図書館の質で決まるといっても過言ではない。なぜなら大学での研究・教育はいずれも図書館に大きく依存しているからだ。

大学では教授たちが図書館を利用し、次ぎつぎと新論文を書いている。学問の発展に貢献しているのである。自然と、大学図書館には学問の最先端を反映した優良な雑誌・図書・資料が集まってくることになるはずだ。これらの図書・資料は、きっと学生諸君の勉学意欲を、強く刺激することだろう。つまり大学図書館は、大学生の教育にも自然と有利な形となっているのである。

雑誌・図書・資料の利用方法については、今後4-6月の時期に各種ガイダンス講座を開催してもらえそうだ。とくに「文献検索」の講座は、おすすめだ。積極的に受講してほしい。

企業システム学(商学)の関連でいうと、本学図書館には次の自慢のコレクションが収蔵されている。いずれも先輩教授・教職員がたが、長年苦勞して収集くださったものばかりである。すなわち米マーケティング科学学会、『学会誌』(創刊号より)、『デジジョン・サイエンス』誌創刊号よりのコレクション、FASB米財務会計基準審議会レポート、などがそれだ。教職員はもちろんのこと、学生諸君の積極的活用を期待したい。

図書館での出会いは、なにも図書や資料とばかりに限ったことではない。

企業システム学の関連でいうと、昨平成16年度は、したの経営学会九州ブロック例会が、25年ぶりに本学で開催された記念すべき年だった。本学からも2名の教授たちが、学会発表をした。今回は都合で隣校舎での開催となったが、じつは12号校舎(図書館)4階にも学会・各種セミナー視聴覚講義・上映会などさまざまな学問的イベントが開催できるミニシアター(小ホール)がある。つまり図書や資料とばかりではなく、人との出会いもありうるのである。

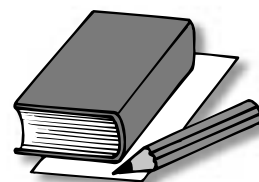
そうした学問的イベントをつうじて、多くの人と出会い、学問の最先端に触れることができるのも、また図書館の大きな魅力のひとつといえよう。

この時期は、希望に燃える新入生諸君が学園の門をくぐる時期でもある。新入生諸君、ご入学おめでとう。今後も、新入生諸君そして在学生諸君の活発なる図書館利用に期待する。



第179回経営学会(九州ブロック)の記録  
(発表者) H16・4・24(土)

1. 企業システム学科・佐久本朝一教授  
「情報化における日本的雇用の実態」
2. 経済学科・村上了太助教授  
「世界タバコ産業の構造」  
(ほか、他校教授など計4名が発表)





## 寄り道・図書館・知的興奮

総合文化学部講師 藤波 潔

子どもの頃、学校からの新しい帰り道を探すのが好きだった。最短ルートをたどれば早く帰宅できて、その分、友だちとも早くから遊べるのだが、それよりも一人で遠回りして知らない道を通るのである。初めての道や、久しぶりの道を通して、普段と異なる風景や人の姿、原っぱに放牧されていた牛や馬の様子を見たり、音を聞いたりすると、とてもワクワクしたことを覚えている。このような訳で、今だに真っ直ぐ帰宅するのは好きではない。(勿論、「新しい道」を探すだけが目的ではなくなったが...)

私のこうした性向は、学問の場面でも露見してくる。イギリス史を専門とする私にとって、学生時代以来、英文(時には独文)史料の読解は不可欠であり、語学力の乏しい私は、辞書をそれこそ真っ黒になるまで引きまくってきた。しかし、私はここでも「寄り道」をしてしまう。ある単語を調べようとして開いた頁に偶然載っている他の単語や前後の頁も「ついつい」読んでしまうのである。したがって、こうした楽しみのできない電子式辞書はあまり好きではない。

これら「寄り道」に共通するのは、「必要に迫られた情報の獲得」ではなく「偶然知り得た情報の獲得」という楽しみであり、「未知なるものと遭遇する」嬉しさである。「寄り道」行為は時間の浪費につながり、非効率で無駄が多い。効率性が優先される現代社会に生きる私たちにとって、膨大な情報から必要な情報だけを迅速に検索する技能は不可欠のものである。しかし、「偶然知り得た情報」や「未知との遭遇」は知的興奮(ワクワク感)を刺激し、新たな知的探究の契機を与えてくれ、それが積み重なることで人間性が涵養され、人間としての知的な「幅」が広がるのだと思う。

私が学生生活を過ごした日本大学文理学部では、当時、図書館は閉架式であった。このため、予め自分の借りたい本を決めておいて、それを申請す

ると、係の人が書庫へ入りその本を取ってきてくれるのだった。このことは、私にとって「必要に迫られた情報の獲得」でしかなく、必然的に図書館へ行くということは楽しいものではなかった。

しかし、大学院生になると、図書館の書庫へ入ることができるという「特権」が与えられた。こうなると、私の図書館へ対する思いは大きく変化した。少数の人間しか入庫が認められておらず、しかも複雑に入り組んだ書庫の中は、私にとって絶好の「寄り道」場所だった。目的の図書や資料が配架されている場所へは直行せずに、あっちこっち寄り道をしながら様々な図書の背表紙を眺めていった。時には未知の図書や資料を「発見」したり、古い雑誌の目次だけを何冊も眺めていて思いもかけぬ論文と出会ったりした(あまりにも嬉しくて当初の目的を忘れてしまい、直後に図書館を再訪したこともあったが...)。静寂な書庫の中でこうした「ワクワク感」を感じる事が、何ものにも代え難く好きだった。

この意味で、全館開架式の本学の図書館は「寄り道」の可能性が無尽蔵に存在していて、私に言わせれば「最高の遊び場」である。館内をちょっと「散歩」して背表紙を眺めれば、そこには「未知なるものと遭遇する」チャンスが無限に転がっている。学生という「無駄な時間」を多く持っているときにこそ、こうした知的「寄り道」を是非楽しんでもらいたい。





## 大学図書館を活用しよう

総合文化学部助教授 山口 真也

「大学図書館」という言葉を聞くと、なんだか堅苦しい場所をイメージする人もいるかもしれませんが、しかし、大学生活を有意義なものにするためには、早い時期に、大学図書館の活用方法をマスターしておく必要があります。今日は、図書館を構成する「4つの要素」を説明しながら、本学図書館の利用方法を紹介してみましょう。

図書館に入って、まず目に付くものはやはり棚にずらりと並んだ「本」ですね。本学図書館には約32万冊を越える本が所蔵されています。小中学校の図書館の蔵書がだいたい1万冊ですので、そのスケールは実に30倍です。ただし、大学図書館にある本は、町の図書館や学校図書館とは違って、「専門書」が中心です。目的に応じて、町の図書館(公共図書館)を併用しながら、レポート作成や研究を進めていきましょう。

棚にあるものは本だけではありません。3階には専門的な学術雑誌、1階の入り口近くの「ブラウジングコーナー」には趣味娯楽向けの雑誌や新聞が、約2,200種類も並べられています。さらに、3階のAVコーナーに上ってみると、5,000点を越えるビデオ(DVD)やCDが並んでいます。大学では、高校までとは違って、1時間目から5時間目までぎっしり授業が入っているわけではありませんので、授業の合間に、学術雑誌を読んで教養を磨いたり、AVブースで映画を見たり、クラシックを聴くなど、贅沢な時間の使い方を試してみてもどうでしょうか。

さて、再び図書館を見渡してみましょう。図書館には本やビデオなどの「資料」の他に、さまざまな「設備」が用意されています。約32万冊も本がある大学図書館は一種の巨大迷路ですので、必要な資料を探し出すことはなかなかやっかいです。そうした場合は、各階にあるコンピュータ(OPAC)を使って館内のどこにどのような本があるかを調べてください。また、館内のコンピュータは、世

界中に広がるインターネットに接続されており、新聞記事検索や各種データベースからの情報収集も可能です。いまや知識や情報は本の中にだけあるわけではありません。新しい情報をどんどん手に入れて、授業や研究に活用してください。なお、コンピュータを使った資料・情報の探し方については、4月の新入生オリエンテーションの他に、毎年、6月頃に文献検索ガイダンスも実施されていますので、積極的に参加しましょう。

さて、ここでもう一度、館内を見渡してみましょう。「資料」と「設備」があれば図書館が成り立つかという、そういうわけではありません。資料と設備を利用者へと結びつける役割をもつ「図書館員」という存在も忘れてはなりません。図書館員という仕事は「司書」と呼ばれる資格を必要とする専門的な職業です。課題は出たけれど、どの本をどんなふうに調べていいかわからない、といった悩みは大学生活を送る上で誰もが経験することでしょう。そんなとき、利用者と知識・情報を結びつける役割を果たすのが図書館員なのです。図書館には貸出カウンターの他に、「レファレンスカウンター」が準備されています。調べものをしているときにわからないことがあれば、どんどん図書館員に質問してみましょう。

ここまでで「本(資料)」「設備」「図書館員(司書)」の3つの要素が揃いました。では、これで「図書館」が完成するでしょうか。何か一つ大事なものを忘れていませんか? そうです。4つ目の要素は「利用者」です。「本(資料)」「設備」「図書館員」の3つの要素が揃っても、利用者がいなければ、図書館とは言えません。図書館は利用するためにあります。図書館は、利用者、つまりみなさんのためのものです。本学の図書館を活用することで、みなさんの大学生活が有意義なものになることを願います。



## 図書館を利用して



法学部法律学科4年次 上 間 司

私は、この沖縄国際大学の図書館は本当に素晴らしいと思います。蔵書の数、パソコン、対面朗読室やグループ学習室、さらにはビデオ鑑賞までできてしまいます。調べ物などの学習だけでなく、娯楽施設としても使用できるので感動したのを覚えています。

入学当初は図書館を全くと言っていいほど利用していませんでした。しかし、レポート等の提出物を書くために図書館の本を調べてみると、そのあまりにも膨大な蔵書数に驚きました。一つの項目を検索するのに何十、何百冊という該当件数が表示されるのです。その中から自分がより知りたい情報をさらに細かく絞り込めるだけの蔵書がこの図書館にはあるのです。わたしは、これはとても贅沢な事だと思います。

その後、図書館でビデオ鑑賞ができると知ってからは、時間に余裕があれば図書館を利用するようになりました。時間が空いても図書館にいれば有意義な時間を過ごす事ができるようになったので、私の大学生活はさらに充実したものになっています。

最近では、講義が午後からの日も朝から図書館を利用し、自習や提出物等を書くことに利用しています。

これだけ書けば十分に沖縄国際大学の図書館の素晴らしさが分かってきたと思います。しかし、これだけ素晴らしい図書館を利用する人にもマナーの悪い人は存在します。おしゃべりだけならまだ許せますが、携帯電話をマナーモードにさえしていない人、あげくの果てには休憩場所ではない場所でさえ通話しだす人さえる事が、同じ学生として恥ずかしく感じられます。

利用者の一人一人が周りの事を気遣える環境になった時に図書館は真に素晴らしい「学習の場」となるでしょう。

## 図書館とは



産業情報学部企業システム学科2年次  
大 城 紅 実

皆さんの図書館のイメージはどのようなものですか？私の図書館に対するイメージは薄暗くて、入りづらく、せまいという印象がありました。しかし、本学図書館を見て、私の今までのイメージは一変されました。この図書館は本を読むだけの場所ではありません。一般・専門図書の数も豊富ですが、雑誌や新聞もあり、ビデオ・DVD・パソコンなど視聴覚コーナーも常備されています。レポートや宿題を出され、資料などを図書館に探しに行っても高校の頃は自習机が少なく、ゆっくり座って学習するという事は出来なかったのですが、本学図書館は自習机がとても多く完備されており、スペースがとても広く、他の人にも気兼ねなく、くつろいで学習する事が出来ます。他に静かにしないといけないう図書館で、

みんなで話しをしながら学習できる「学習室」があります。私は講義で分からなかった所などを友人に教えてもらったりする場としたりして活用しています。それに、本学図書館は遅くまで開館しており、学生のニーズに合わせた快適な場所となっています。

私にとって、入りづらかった図書館が今では欠かせない場となっており、これからも大学生活を充実するための場として大いに利用していこうと思っています。

新入生の皆さん、きっかけは何であれ、まず自分の目で確かめ、肌で感じ図書館を利用して下さい。きっとこれから始まっていく、大学生活を充実・進展させていくためのすばらしい場所となることと思います。



## 図書館という名の学び場



総合文化学部人間福祉学科4年次  
茂 上 隆 行

「図書館とは？」皆さんならこの問いにどう答えるだろうか？私達が共通に持っている図書館のイメージと言えば、「本を借りることができ、静かな学習環境を提供してくれる場」といっても過言ではありません。実際皆さんが今まで利用してきた地域や学校の図書館は、そのイメージ通りの雰囲気があり、学生の立場から見ると、どこか入りづらく、親近感の持てない「特別な場所」だったと思います。しかし、私は本学の図書館と出会い、「図書館は特別な場所」という固定観念を「多種多様なニーズを持つ学生のための場」という考えに変えることができました。本学の図書館は一般・専門図書が豊富なことはもちろん、パソコン、ビデオ・LDや雑誌が充実しており、さらにAVホール、グループ学習室も

設置されていることが、他の図書館と大きく異なる点です。特に最後に挙げた二つの設備は、グループ発表の場が数多くある人間福祉学科の学生にとって、話し合いの場、またはその発表の場として最適な場所であり、今まで何度も活用させていただきました。

「図書館は情報の倉庫」と言われるように本学の図書館は、県内トップクラスの情報網を持つ上、様々なニーズに応じている画期的な図書館です。しかし、その図書館の利点を生かすも殺すも私達学生だということを忘れてはいけません。それぞれが自分なりの図書館の有効利用法を見つけ、よりよい学生生活を送れる場となることこそが、図書館の利用の本質ではないでしょうか。





## 大学院での仲間との出会い

地域産業研究科 地域産業専攻 2 年次 當 間 優 紀

知識の幅を広げたい、自分の夢を見つけたいという思いから、私は昨年の 4 月に大学院の「地域産業研究科 会計コミュニケーション領域」に入学し、1 年が過ぎようとしています。この 1 年間とても充実した、そして自分の考え方を変えたと言ってもよいほど貴重な 1 年間でした。入学した当初は新しい環境の変化と、次々にまわってくる課題についていけず、自分が選んだ道が正しかったのかという迷いと、大学時代の友人が学生から社会人になり成長していくのを見ていて、なんだか取り残されたように感じることもありました。そんな私に厳しくもやさしい言葉をかけてくれたのは、同じように大学院で学ぶ会計領域の仲間でした。論文作成がうまくいかず悩んでいるときに「論文を作成するのは根気が要る作業だ。大学院では、勉強だけではなく精神力も鍛えよう」と私を励まし、一緒に図書館でテーマについての文献検索に協力してくれました。大学院では学部とは違い、社会人の方や自分の考え方とは異なった人たちと多く知り合うことができます。私がとても嬉しく感じることは、そういう人たちと研究していることだけでなく、社会で起こっていることなどについて話し合い、お互いの意見を交換することができることです。また講義で学ぶ「理論」の目線だけでなく、それを含んだ「実践」のことを聞くことで、より理解を深めることにもなりました。現在、それぞれのテーマが決まり、本文への書き込みがスタートしたことから、お互いのテーマを深く考察できるように、講義の前に同じ領域の仲間たちと集まりそれぞれの論文の進捗状況を発表しています。この「読み合わせ」は、お互いの意識を高めあい、協力し合うことができるため、とても有意義な時間となっています。

このような、修士論文の作成やレポート課題、またそれらに伴う研究を学ぶときに必要な資料を収集するために役に立ったのが、大学院生の図書

館での特権でした。大学院では、研究をする環境がすごく整えられています。図書館には地下 2 階と 2 階に研究個室があり、それをうまく活用し、集中して資料の検索収集、それぞれのテーマ研究に打ち込むことができます。図書館にある文献を検索するシステムの OPAC や、論文を検索する研究紀要ポータルなどを使い、必要な文献を探し出すことで文献レビューをし、自分の研究テーマがどこまで研究されているか見直すことは論文作成で大切な作業です。図書館のどの場所にどのような関係の本が並べられていて、自分が必要な資料を収集するのにどの場所にいけばよいのか、ということが分かるようになるとその作業はより効率的なものとなります。さらに図書館には、他大学の図書館の本を借りることや必要な資料を複写して送ってもらうサービスがあります。このようなシステムを利用して、個人では閲覧できない資料を収集することで研究に役立てています。

私がこの 1 年で学んだことは、仲間が掛けてくれた言葉のように、勉強や研究だけではなく、その言葉は、悩んでばかりいた私の気持ちを前に向かせ「悩んでいても仕方がない、自分が今ここに居る環境に感謝し精一杯やってみよう」という考え方へ変わる一言になりました。もう一度、自分の初志に向き合ったことで論文や学ぶということに対しても受け身ではなく積極的に取り組むことができ、今、感じることは、このように周りにいる人々の存在と出会いに感謝の気持ちです。それぞれの志をもって研究している仲間たちとの出会いは、これからも私にとって大きな財産になることでしょう。





## 自分流の図書館活用法してみませんか？

- 琉球芸能を通じて -

地域文化研究科 南島文化専攻2年次 宮城茂雄

2000年4月、沖縄国際大学に入学し早5年。そして、大学院生として今6年目の春を迎えています。自分が、こんなに長い間大学で生活するとは夢にも思っていませんでした。これも、人と人とのめぐり合い、素晴らしい出会いの賜物です。琉球芸能を通しての自分の大学生活、そしてその中の図書館の存在についてお話したいと思います。

幼い頃から、なぜか沖縄の芸能に非常に興味のある一風変わった子供だった自分は、女の子の群集に混じりながら琉舞研究所に、入門しました。男の子1人という淋しい思いをしながらも、ひたすら踊りが好きで研究所に通いつづけ、いつしか芸能を研究したい、という大それた志を持つようになり、琉球文学を学ぼうと沖縄国際大学の国文学科(現、日本文化学科)に入学しました。踊り好きな少年が、ここまで芸能に足を突っ込むとは、家族親戚の誰も思わなかったでしょう。だって自分も思わなかったのだから。

さて、大学に入学した少年は、ひたすら芸能に熱中しました。もちろん遊びにも…。大学の講義では、琉球文化関係の講義は片端から受講し、舞踊の面では、組踊の伝承者として組踊や舞踊の公演に出演しました。そして、この沖縄国際大学図書館の郷土資料室を住みかたに、暇さえあれば琉球芸能系の本や資料を読みあさりしました。琉球舞踊の写真集、舞踊・組踊の研究書、沖縄民俗、歌舞伎・能・狂言などといった辞典、研究書、写真集などなど。3階のビデオコーナーでは、沖縄芝居・歌舞伎・民俗祭祀などのビデオを見ました。このように友達との遊び以外は、何らかのかたちで芸能、そして図書館に接してきました。

3年次になると、ゼミを選択しなければなりません。もちろん、琉球文学コースの琉球文学のゼミ「狩俣ゼミナール」に決めました、だってこのゼミに行くために沖国大に進学したのですから。ここで運命の出会いがあったのです。狩俣恵一先生との出会いです。先生は、北海道から赴任なされ1年目で、初めてのゼミ生としてご教授いただくことになりました。初授業から、「組踊の唱え」で自己紹介した自分は、まわりのゼミ生からも特異な存在として見られていたかもしれませぬ、今になって思えば。琉球文学ゼミは、琉歌について一人一人発表していくという形式の講義です。もち

ろん図書館通いは続くわけで、発表の為に本部町の図書館や歌人の墓を訪問と、とても有意義な年でした。

それからというもの、先生の研究室に日々通い、本土芸能について教えていただき、コーヒーを飲みながら芸能談議に花が咲き、ますます芸能への思いが増し、しまいには先生より研究室に長く居るようになってしまいました。そして、沖国にも芸能サークルを！！という思いが、ふつふつと沸きあがってくるのでした。ある日、2003年3月に沖国大の体育館が落成する、という情報を聞きつけ、その落成式典で、芸能を志す学生を集めて披露したい、と考えました。すぐに狩俣先生に相談、学校側と交渉の末、披露する場を与えてくださいました。そして、民俗芸能や琉舞など様々な芸能を経験している学生が集まり、成功裏に終える事ができました。その出演者を中心に発足したのが「沖縄国際大学 琉球芸能文学研究会」です。今や、会員40名を越す大所帯となり、テレビ出演や、沖縄本島をはじめ仙台・宮古・東京などで公演を開催する大きな研究会となりました。研究会は、芸能の実践だけではなく、その内側にある琉球文学の研究も目標の一つに掲げています。その研究には図書館は無くしてはならないもので、またまた郷土資料室のお世話になるのです。また、本図書館は「録音スタジオ」も完備していて、舞踊曲の録音など様々な活用させて頂いています。

さて、そうしているうちに卒業の時期を迎え、進路就職を考える時期になりました。しかし自分には、一つの道しか見えませんでした。そうです、大学院です。もっと、この素晴らしい環境で勉強したいと思い、大学院受験を決意し幸運にも合格を得ました。こうして振り返ってみると、いつも様々なかたちで、個性的な図書館との付き合いをしてきたなぁと感じます。

そして現在は、大学院で琉球文学を学ぶ傍ら、本大学図書館で学生アルバイトとして働かせて頂いています。図書館は、本を読みテスト勉強する場所、という以外にも活用次第ではもっと色々な方面で活用できる素晴らしい建物だと、働くようになり一段と感じています。

みなさんも自分流の図書館活用法作り上げてみませんか？



## 図書紹介

# 『頭がいい人、悪い人の話し方』

(樋口裕一 著 PHP新書)

法学部助教授 脇 阪 明 紀

「頭がいい人、悪い人の話し方」というタイトル自体、いささか人をギョッとさせるに十分なものであるように思われる。否、内容の方は、読み進むにつれてタイトル以上に面白く、かつ、頭の痛いものとなっている。最近、あちこちの本屋に山積みされているのを見かけるから、それなりの話題作となっているのであろう。

著者は、あとがきにも述べているように、本来、小学生から社会人までの小論文・作文の指導をする文章指導の専門家であり、話し方のプロなどではない。それでは、なぜこのような本が書かれたかという、次の二つの理由を著者はあげている。すなわち、著者は、まず第一に、会話と文章には共通点が多いこと、つまり、愚かな文章の特徴は愚かな話し方の特徴でもあるということ、第二に、どのような話し方をすれば、相手を説得できるか、相手の心を引きつけることができるか、あるいは、どのような話し方をすれば、相手の心が離れていくのかということに着目して本書を書くに至ったと述べている。

かくして著者は、長年にわたって発見した愚かな話し方として四十例を本書にあげ、それらを反面教師として、どのような話し方が頭のいい話し方であるかを読者にまず考えさせ、それを身につけるにはどうしたらいいかを具体的に説明している。たとえば第1章「あなたの周りのバカ上司」においては、上司が「他人の権威を笠に着る」「自分を権威づけようとする」「ケチばかりつける」「難解なことを言って煙に巻く」など、我々のごく身近にありそうな悪例をあげて、周囲の人がそれにどう対応すればよいか、あるいは悪い話し方をしている本人がそれを自覚するにはどうすればよいかを示すことにより、逆の「いい話し方」つまり知的な話し方を身につける方法を説明しているのである。

しかし、この第1章の悪例は、なにも職場の上司のみに妥当するものではないであろう。すなわち、これを「あなたの周りのバカ教師」と置き換えてみて

はどうだろう。私が本書を購入するに至った理由も、実はここにあるのである。これは、直接的には大学の教育現場に当てはまらないことかも知れないが、たとえば上記の悪例を「他の大先生の権威を笠に着る」「自分をことさら偉く見せようとする」「学生の意見や考えにケチばかりつける」「学生が理解できない専門用語ばかり使う」といったふうに言い換えてみてはどうであろうか。かなりそれらしいモデルの教師像が、具体的に連想されてくるであろうし、ひょっとすると私自身がそれらの悪例のいくつかに当てはまっているかも知れないという恐れさえあるのである。私は現在、大学の教員として、人を教える立場にあるわけであるが、はたして自分が本書にいわゆる「いい話し方」ができていたかが非常に気になるところである。

ともあれ、本書のプロローグにも述べられているように、人は、話をすることによって、相手の知的レベルを判断しているのであり、話し方ひとつで自分の知的レベルが相手方に評価されてしまう恐れを常にかかえている。すなわち、そのような事情を考えるならば、私は、ある程度知的レベルの高い人や、あるいは知的向上心をもつ人に本書をぜひ一読するようおすすめする次第である。





## 情報処理軽井沢セミナーに参加して

図書館運用係 當山 仁 健

12月13日～18日にかけて情報処理軽井沢セミナーに参加してきた。これは国立情報学研究所(NII)が毎年実施している合宿形式のセミナーで、情報処理の最新技術・理論を習得することを目的として開催されている。今回は、学内研究者・学生向け情報サービス「学術ポータル」と呼ぶものを構築するための企画・立案に必要な専門的知識や最新技術を習得することを目的として実施された。参加条件は「UNIXが使って、サーバの構築が出来て、プログラムを組めること」だった。参加者は全国から8名。応募倍率は2.5倍という状況の中、思いが通り、幸運にも参加することができた。セミナーでは最初の2日間は講義形式で学術ポータルを構築する際に有用であると思われる最新技術について学んだ。その後、4日間、軽井沢の国際高等セミナーハウスに缶詰になって、最新技術を利用した学術ポータルを企画・立案し、実際に構築作業を行った。

詳しいセミナーの内容に先立ち、まず、学術ポータルとは何であるかということをはっきりしておきたい。これまで図書館というのは、学術情報を蓄積し、分類、保存して、利用者に提供してきた。しかし情報技術の発達にともない、現在、学術情報はネットワーク上にも存在するようになった。だが、インターネット上の学術情報はさまざまな場所に散在しており、手がかりなしに、利用者が必要とする情報にたどり着くのは難しい。図書館の役割を学術情報を必要な人に提供する橋渡し(ガイド)としてみたとき、図書館はネットワーク上の学術情報へのアクセス性も提供する必要がある。必要な情報を、必要としている人へ、アクセスしやすい形で提供する。これが学術ポータルの基本的な考え方である。

最初の2日間の講義形式の研修では学術ポータル概論から始まり、ウェブユーザビリティ、汎用連想計算エンジンGETA(1)、ネットワーク上の学術情報のメタデータ(2次情報)を取得するための技術OAI-PMH(2)、自機関内の成果物をネットワーク上に蓄積し公開するための手段として学術機関リポジトリ構築ソフトウェアE-Prints/GNU Dspace、サービス間連携の手段としてSOAP、電子ジャーナルへのアクセス性の確保の手段としてOpenURL、Googleの提供する学術情報に関連する最新技術とサービスについてなどの説明、そして先進的な学術ポータルを構築している大学の事例報告を聞いた。

それぞれの技術・事例が面白く、学術ポータル作成の際に活用できそうなものであるが、紙面の都合上すべてを紹介することはできない。そこで特に面白かったものとして汎用連想計算エンジンGETAについて述べる。GETAとは連想検索を実現する事のできるエンジンであり、Webcatplus(3)でも使われている。連想検索とはあいまいな検索語や文章から目的に近い検索結果を探し出す事のできる検索方法である。たとえば、Webcatplusで検索語に「背中が痛いなあ。」と入力すると、「病院に行く前に読む本」や「からだの痛みで病気がわかる本:何

科にかかればよいのか?」など、非常にあいまいな検索語からでも、検索語を類推し、具体的な本を推薦してくれる。連想検索を利用すれば、検索者が思いつかなかった検索語も漏れなくカバーする事ができるので、検索漏れが少なくなる。

GETAは情報処理振興事業協会(IPA)が実施した「独創的情報技術育成事業」の成果物で、オープンソースでインターネット上に公開されており、無料で利用することが出来る。今回はこの技術を身に付けることを第一の目的として参加した。

合宿ではまず、自分の作りたい学術ポータルのイメージをプレゼンし、その機能(部分的でも可)を実装する事を目標とし、作業を進めた。私の立てた合宿中の具体的な目標は「ネットワーク上のフリーの学術情報(オープンアクセス論文、無料電子ジャーナル等)をOAI-PMHで自動的に収集し、汎用連想検索エンジンGETAを利用して連想検索を可能にする。」というものだった。実際の作業にあたっては、「自分で時間をかければ実装できそうな事はこの合宿ではしない」という方針で進めていった。合宿中は、GETAの開発者であるNII高野明彦氏の研究室の助手である丸川雄三氏がマンツーマンに近い形でそばについてくださり、アドバイスをいただくことができた。

その甲斐あって、GETAを利用して連想検索を実装できるようになった。次にオープンアクセス論文からメタデータをOAI-PMHで取得しようと試みた。ここで少々でこぼった。OAI-PMH自体はネットワーク上のメタデータを保存しているデータベースからhttpを利用してXML形式でメタデータを取得するという単純なプロトコルなので、実際にデータを取得するプログラムを書くことはできた。だが、肝心の取得したXMLデータの加工に手間取り、GETAの検索対象にすることはできなかった。そこで、代わりに本学から持っていった県内行政資料のデータベースのデータを検索対象にすることにした。これはうまく動いた。現在、図書館Webサイト(4)にリンクが貼ってあるので、興味のある方は試してみたい。合宿中に達成できなかった課題については継続して取り組み、サービスとして公開していく予定だ。

合宿で学んだ知識や技術は大きな糧になった。それだけでなく、他大学の図書館員と交流をもてた事は非常に貴重な体験になった。今後、学んだ知識、技術を生かし、学術ポータルとしての充実に向けて図書館Webサイトを再構築し、利用者サービスの拡大につとめたい。

1 汎用連想計算エンジンGETA <http://geta.ex.nii.ac.jp>

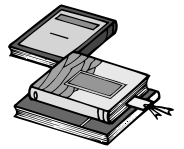
2 OAI-PMH <http://www.openarchives.org/OAI/openarchivesprotocol.html>

3 WebcatPlus <http://webcatplus.nii.ac.jp>

4 沖縄国際大学図書館 <http://www.okiu.ac.jp/library/>



# 学科長が新入生に薦める5冊(種類)の本



## 法学部法律学科長 井村真己

書名	著者名	発行所
① 論憲の時代	毎日新聞論説室	日本評論社
② 働くということ	日本経済新聞社編	日本経済新聞社
③ 封印される不平等	橋本俊詔	東洋経済新聞社
④ 空想法律読本	盛田栄一	メディアファクトリー
⑤ 13歳のハローワーク	村上 龍	幻冬社

## 法学部地域行政学科長 熊谷久世

書名	著者名	発行所
① 現代日本と沖縄	新崎盛暉	山川出版社
② 冷戦史:その起源・展開・終焉と日本	松岡完 広瀬佳一 竹中佳彦	同文館出版
③ 風人たちの夏	瀧井宏臣	八月書館
④ キミよ歩いて考える ぼくの学問ができるまで	宇井 純	ポプラ社
⑤ 市民自治の憲法理論	松下圭一	岩波書店

## 経済学部経済学科長 湧上敦夫

書名	著者名	発行所
① 高校生のための経済学入門	小塩隆士	ちくま新書
② 目からウロコの経済学入門	山崎好裕	ミネルヴァ書房
③ 経済史入門	川勝平太	日経文庫
④ 地球日本史	西尾幹二	扶桑社
⑤ スッキリ! 日本経済入門	岩田規久男	日本経済新聞社

## 経済学部地域環境政策学科長 名城 敏

書名	著者名	発行所
① 地方からの発想	平松守彦	岩波書店
② 若者の法則	香山リカ	岩波書店
③ 農から環境を考える	原 剛	集英社
④ エコロジー幻想	武田邦彦	青春出版社
⑤ リサイクル幻想	武田邦彦	文芸春秋

## 産業情報学部企業システム学科長 清村英之

書名	著者名	発行所
① 経営はロマンだ!	小倉昌男	日経ビジネス人文庫
② 吉野家の経済学	安部修仁 伊藤元重	日経ビジネス人文庫
③ 社長になる人のための経理の本	岩田康成	日経ビジネス人文庫
④ これで完ぺき 社長になる人の ための経理の本「管理会計編」	岩田康成	日経ビジネス人文庫
⑤ マンガはなぜ、よみがえったのか?	宮本喜一	日経BP社

## 産業情報学部産業情報学科長 大井 肇

書名	著者名	発行所
① 知的複眼思考法	苅谷剛彦	講談社
② 創造の方法学	高根正昭	講談社現代新書
③ 「できる人」はどこがちがうのか	斎藤 孝	ちくま新書
④ 子どもは判ってくれない	内田 樹	洋泉社
⑤ インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書

## 総合文化学部日本文化学科長 吉野樹紀

書名	著者名	発行所
① 日本語の歴史 青信号はなぜアオなのか?	小松英雄	笠間書院
② 人間、この非人間的なもの	なだいなだ	筑摩書房(ちくま文庫)
③ 教養としての大学受験国語	石原千秋	筑摩書房(ちくま新書)
④ 王朝貴族物語	山口 博	講談社(講談社現代新書)
⑤ 鬼平と出世 旗本たちの昇進競争	山本博文	講談社(講談社現代新書)

## 総合文化学部英米言語文化学科長 新垣 實

書名	著者名	発行所
① なんで英語やるの	中津僚子	文春文庫
② 日本人はなんで 英語ができないのか	鈴木隆夫	岩波新書
③ マルスの原から バルナツスへ	米須興文	影書房
④ 論争・英語が公用語になる日	中公新書ラクレ編集部+ 鈴木義里	中公新書
⑤ 哲学講義1~4	P フルキエ	ちくま学芸文庫

## 総合文化学部社会文化学科長 江上幹幸

書名	著者名	発行所
① パレオマニア	池澤夏樹	集英社インターナショナル
② 環境考古学への招待	松井 章	岩波新書
③ 東南アジアを知る	鶴見良行	岩波新書
④ 種の起源をもとめて	新妻昭夫	朝日新聞社
⑤ 忘れられた日本人	宮本常一	岩波文庫

## 総合文化学部人間福祉学科長 岩田直子

書名	著者名	発行所
① 弱くある自由へ ~自己決定・介護・生死の技術~	立岩真也	青土社
② 変革は弱いところ、小さいところ、 遠いところから	清水義晴 小山 直	太郎次郎社
③ 昭和史	半藤一利	平凡社
④ 歴史を深く吸い込み、未来を想う	寺島実郎	新潮社
⑤ 漢字と日本人	高島俊男	文芸春秋

## 図書館利用オリエンテーション

### 平成16年度新入生 図書館利用オリエンテーション実施状況

図書館では、新入生を対象に毎年オリエンテーションを行っている。平成16年度は4月21日から5月12日の間実施した。対象学生1,441名の中、参加者は、1,358名で、率にして94%でした。

オリエンテーションの目的は、図書館に早期に慣れ親しんでもらうこと、且つ資料等も十分に活用できるようになること等である。オリエンテーションは、図書館利用の全般的な心得等について職員が説明した後、各階(地上4階、地下2階)を案内しながら施設設備・機器備品の説明から配架されている図書資料の探し方や借用・返却、オンライン検索の際の使用方法等について分かりやすく説明をし、最後に、オンライン検索(OPAC)で図書資料の検索からその資料に辿り着くまでの実習をしました。

### 平成17年度新入生 図書館利用オリエンテーションの実施について

平成17年度新入生図書館利用オリエンテーションは4月25日(月)から実施予定です。基礎演習等の時間を利用して行うことになっておりますので、参加するようにしてください。詳細については、後日、担当教員を通して連絡します。

### 図書館は皆さんを待っている

図書館には蔵書約32万冊(郷土資料、参考図書含む)、視聴覚資料7,477点、雑誌2,217種類、新聞48紙、その他パソコン機器50台(その中21台は研究個室に備置)、ビデオ25席等を常置しています。これらの資料等は皆さんの利用を待っています。在学中、知的好奇心を大いに発揮し、図書館を思う存分に利用して下さい。

## 平成16年度 文献検索ガイダンス

図書館では、大学院生や学部生を対象とした文献検索ガイダンスを6月に9回実施しました。情報化が進んだ今では、本学図書館に所蔵する図書や視聴覚資料の他にも他の図書館に所蔵する文献やインターネットを介してあらゆる情報が入手できるようになっています。膨大な資料の中から必要な情報をより効率よく検索する方法を紹介し、学生の情報収集力を高めることで学習・研究を支援するものです。昨年からは実施しているもので、今年度は173名の参加がありました。

ガイダンスでは、OPAC(本学図書館蔵書検索)や国立情報学研究所(NII)が提供する情報検索サービスで、NACSIS-Webcat(全国大学図書館等の蔵書検索データベース:約680万冊対象)、NACSIS-IR(雑誌論文の検索データベース:約650万件対象)、その他、各種データベースの特徴と操作に関する説明をし、実際に参加者自身が必要とする文献情報を検索する演習を行いました。

ガイダンスの方法としては、AVホールでの説明を30分、検索の演習を1時間設定し演習を充実させました。説明では、パワーポイントの画面と同じ内容をプリントしたメモ用紙を作成して配布し、演習後でも学生自身が

利用しやすいように配慮したことで参加者から好評でした。

情報化の進展により、従来の紙媒体の資料だけでなく、インターネットやデータベース等を利用した情報収集が可能で、テーマに関連する文献資料が瞬時に検索でき、選択の幅が広がり、情報が得られやすい反面、利用者には情報を取捨選択する眼が必要となります。論文やレポート作成時に必要な文献と便利な入手方法を習得し、効率よい情報収集を心掛けてください。



文献検索演習



AVホールでの説明風景

## 優秀賞 1 点、佳作 4 点決まる - 平成16年度 論文・エッセイ -

本学学生の日頃の研究及び読書活動の向上を図ることを目的として平成元年度から実施している図書館主催の「平成16年度論文・エッセイコンテスト」は、16回目を迎えた。今年は、昨年同様 8 点の応募があった。

応募作品の選考は、1月14日(金)の第2回図書委員会で行われ、優秀賞に総合文化学部日本文化学科4年次・真栄城絹枝さんの「社会人特別入学生として思うこと」が決まり、その他に佳作4点が選考された。残念ながら今回は最優秀賞作品の該当はなかった。

### 優秀賞

総合文化学部日本文化学科4年次 真栄城 絹 枝

「社会人特別入学生として思うこと」

### 佳 作

総合文化学部日本文化学科1年次 島袋 賀旭

「『受験科目から英語をなくす?!』

～一般教育としての英語と実用教育としての英語の混同～」

大学院地域文化研究科南島文化専攻2年次 柳下 換

「真振まぶいの故郷はギリシャだったのか」

総合文化学部日本文化学科4年次 鈴木 潤三

「『中学校作文教育における創作する力の指導の考察』

大村はま氏の単元学習『旅の絵本』の場合」

総合文化学部英米言語文化学科1年次 上原 三矢子

「大学生生活と私」

年次は受賞時

### 表彰式開催

論文・エッセイコンテストの表彰式が1月21日(金)午後4時から図書館会議室で開催された。式は、新川宣安課長の経過説明に始まり、稲福日出夫館長から賞状と副賞が受賞者一人ひとりに授与された。引き続き館長、図書委員の先生方

から講評が行われた。その後、ささやかではあるが受賞者を囲んでのパーティーが開かれた。受賞者は図書委員・図書館職員から祝福をうけ「自分の作品が受賞できるとは思わなかったのうれしい」「受賞の知らせの電話があった晩はうれしくてなかなか寝付けなかった」「どう評価されるか不安だったが、いい結果がでて大変良かった」と喜びを語った。

優秀賞受賞者の真栄城絹枝さんは「私の書いたエッセイを、このように評価していただき、嬉しさと感激でいっぱいです。卒業を間近に控え、これまで過ごした4年間で、走馬灯のように思い出され、日ごろ思っていたことや、考えていたことを書き綴ってみたのです。今回の受賞は、思い切って応募した私に大きな自信を与えてくれました。この賞を機に読書を多くし、文章力や表現力を高めたいと思います」と今後の決意と喜びを語った。



### 図書館長の 講評

「社会人特別入学生として思うこと」  
(真栄城絹枝)

このエッセイというか、随想文を読んで感じたことは、自己の考えたことや思い描いたことをこのように過不足なく、且つ、丁寧に述べることのできる才能に大変感心しました。というのもこの方の大学入学の動機から始まって、この3月に卒業なのでしょうか、この4年間の学生生活を、周辺への目配りもきちんとされながら、振り返っております。と同時に大学に対しても、声高にではなく、自分の経験に基づきながら、きちんと提言されております。読み終えて、是非、お会いしたいな、と思っております。私も応募作品中最高得点をつけたひとりです。





## 優秀賞 社会人特別入学生として思うこと

総合文化学部日本文化学科4年次 真栄城 絹 枝  
(年次は受賞時)

2001年という節目の年に、私の長年の夢であった大学入学が実現した。大学への憧れは、結婚後もずっと持ち続けていたが、35年も専業主婦を続けている内に、いつしかその思いも小さく萎んでしまい、もう殆ど消えかかっていた頃であった。夕食後のひととき、社会人特別入試という制度の事が話題になり、「行ってみたい」と私が言うと、「じゃあ行けば」と夫と娘の言葉が返ってきた。そんな何気ない会話がきっかけとなって、とんとん拍子に話が進み、気持ちの整理もつかないまま、私は背中を押されるように大学生となった。

単に読書好きというだけで、何の目標もないまま、私は未知の世界に足を踏み入れることになった。大学での講義はこれまでと違い、先生の話聞きながら、要点を自分なりに纏めなければならない。ちょっと考え込んでいると、どんどん前に進んでしまい、途中で解らなくなってしまうこともあった。前方に席を取り、聞き漏らすまいと真剣に耳を傾けてメモしたつもりでも、家に帰って目を通してみると、意味不明なところが次々に出てくる。特に暗記力を要する「英語」と「中国語」は、いくら頑張っても思うように頭の中に入ってくれない。宿題の出来ていない日は、朝から憂うつになり、登校拒否する子供の気持ちが、何となく理解できるようになった。授業が進めば進むほど、どの科目も自分の知識が如何に薄っぺらで、曖昧なものであったか思い知らされた。

中でも古典文学は習った記憶が殆ど無く、これまで何の関わりや知識もないまま過ごしてきた。子供の頃読んだことのある「かぐや姫」が、日本で最初の作り物語『竹取物語』として、大学でも研究されていること、世界の三大美女の一人として名高い小野小町が、有名な歌詠みであったことも、大学生になって初めて知った。本はよく読んでいるほうだと自負していただけに、受けたショックは計り知れず、歴史や古典文学を一から学ばなければといけないと痛感したのである。そういう時、

我が家の本棚の片隅で五十年も前に発行された『枕草子』を見つけだした。冒頭文の「春は曙～」から始まる歯切れの良いリズムカルな文章は、何故か私の記憶の底にも微かにあって、ふっと懐かしさがこみあげてきた。夫が大学時代に購入したその本は、黄ばんでぼろぼろになっており、表紙を捲るとぱらっと剥がれてしまうほど傷みが激しかった。パソコンの練習のつもりで、恐る恐る訳文だけを打ち込んでいる内に、だんだん愛着が湧いてきて、製本すると温もりのある小冊子が出来上がった。

凡そ一千年前という気の遠くなるような時代に、『枕草子』は女性によって書かれ、今尚、多くの人に愛され読まれつづけている。一体、作者の清少納言はどんな女性であったのか、またどのような時代に、どのような生涯を送ったのか、日を追うごとに私の関心は高まっていった。『枕草子』に関する資料を探し求めて、学校や各地の図書館を訪ねてみたが、自分の希望する図書がなかなか見当たらず、気落ちしていたところ、本学の図書館で文献検索ガイダンスの講習があることを知った。受講後、「Webcat」で全国の大学図書館を検索してみると、希望の図書が愛知県の大学にあることが分かった。普段の私は図書館の入り口で、カードの操作が上手くいかず、もたついては職員に迷惑を掛けることもあり、入館するのが苦手であった。それだけに、申し込んでいた本がはるばる県外から届き、借りる事が出来た時の嬉しさは格別で、感動で胸が一杯になったのを覚えている。また、購入願いを出していた本が館内に置かれ、私は借り入れ第一号となった。『枕草子』との出会いは、私の古文に対する関心を一気に高め、図書館に対する苦手意識を取り払ってくれた。

私は社会人入学制度のお蔭で大学生となり、3月には卒業予定となっている。4ヶ年という長い年月を、果たして続けられるかどうか、不安を抱えての入学であったが、あっけなく過ぎ去ろうとしている。数々の失敗もあったが、多くの人達に

支えられて今日に至っている。これまでを振り返ってみて思うのは、年齢を重ねた社会人だからこそ、出会える新鮮な発見や感動もあり、専業主婦には味わえない貴重な体験をする事が出来たことである。日常生活の至るところで、入学前とは何処か違う自分を発見することもあり、改めて大学に入学して本当に良かった、自分の選択は間違いではなかったと、今では自信を持って言えるようになった。

定年を迎えた友人たちが集まると「何時まで経っても結婚してくれないので困っている」「結婚しても子供を作らない」と、結婚もせず同居している子供に対する不満や愚痴が多く出てくるようになった。少子化は大きな社会問題となっているが、熟年世代にとっては、孫と接する時間が少なくなった分、自由でゆとりのある時間を手にし、自分の思い通りになる贅沢な機会を与えられたということでもある。親しい友人に大学の話をすると「大学は敷居が高くてねえ」とか「今更どうして」といわれることが多い。貧しい時代に育った私たちの世代は、高校にも行けない人もいて、大学は全く無縁の世界であった。しかし、昨今では、国を挙げて生涯学習への取り組みがなされており、学ぶ意欲のある人は、様々な制度を活用して学ぶ事

が出来ようになっている。これから何かを学びたいと思っている同世代の人達に、思い切って入学することを奨めたい。これまで知らなかった事を知る喜びが、どんなに大きなものであるか、経験した者として伝えたいと思っている。

しかし、まだまだ社会人の入学者は少なく、私の選んだ総合文化学部日本文化学科でも、125名の中で社会人は私一人であった。年齢の離れた若い同級生たちに囲まれ、取り残されないように、必死になって頑張れたことは、それなりに充実感や満足感もあったが、若い仲間の会話の中に入っていけず、孤立感に悩んだこともある。社会人仲間と交流を持ちながら、学べるとして入学しただけに、戸惑いと動揺はかなり大きいものがあった。本大学では、一般の社会人を対象に講座を開き、大学の活動内容に触れる機会を作っているが、私がそうであったように、一般の社会人は入学制度のことを、案外知らないのではないと思われる。社会人を対象にした特色のある大学作りに取り組み、特別クラスなどを作って、多くの社会人がもっと気軽に参加し、楽しく学べる場を提供してくれたら、どんなに良いだろうと考えるのである。

## 想像してみてください

昨年の夏、図書館に、「図書館」を職場訪問・体験学習の場に選んだ中学生の男の子たちがやってきました。朝イチのカウンター業務を皮切りに、図書館ではどのような業務が行なわれているのかをそれぞれの担当職員が紹介・指導しました。

私はその少し前の4月に図書課整理係に配属されたばかりの新任職員です。日々の業務にほんの少しずつ慣れてきたその頃、私も彼らに業務を紹介することになりました。

内容は「図書館に本がやってきて、利用できるようになるまでの間にどのようなことが行なわれているのか」。与えられた時間は「10分」。簡単にレジュメにすると2枚に足りない字数でも、実際に話し始めると10分ではとても足りない内容で、時間はあっという間に過ぎてしまいました。

そのあと開かれた職場体験終了式で、感想を話す彼らの口々から揃って飛び出したのは「図書館にこんなにたくさんの仕事があるとは思わなかった」

という言葉でした。「あ～、話し足りない!!」という思いを抱えたまま参加していた私は、彼らのその言葉を聞いたとき、思わずニヤツとしてしまいました。彼らがおどろくのも仕方ありません。実際に、図書館の中ではいろいろな人が働き、専門的で難解な業務を日々こなしているのです。

カウンター業務、レファレンスサービス、利用指導等を担当している「運用係」、図書の選書・受入れ・装備、配架等を担当している「整理係」…。32万冊の蔵書を抱えたこの図書館を管理・運営するために、それぞれに重要な役割を担いながら働いています。

図書館で1冊の本を手にしたとき、その本がそこに辿り着くまでにはどのようなドラマがあったのか、想像してみてください。もしかすると、それまで抱いていた図書館へのイメージが一変するかもしれません。そう、中学生の彼らのように。

(整理係 友利 祐子)

平成16年度

私立大学等研究設備整備費等補助金交付決定

文部科学省高等教育局長から、平成16年12月8日付、次の通り交付決定通知があった。補助率は、59%。

Table with 6 columns: 学部学科, 設備名, 区分, 事業総計費, 補助額, 本学負担額. It lists two grant entries for research equipment.

稲福日出夫図書館長が講演 (沖縄県大学図書館協議会総会)

平成16年度沖縄県大学図書館協議会総会が、平成16年7月8日(木)、沖縄女子短期大学図書館で開催され、事業報告、予算・決算報告等の審議が行われた。その後、講演会が行われ、本学の稲福日出夫図書館長が「グリム兄弟と図書館」の題で講演をおこなった。



平成16年度寄贈図書(個人) 寄贈図書が複数ある場合は、任意の一冊を表示させていただきます。

A large table listing donated books. It has four columns: 書名情報, 寄贈者名, 書名情報, 寄贈者名. The list includes titles like 'アラブ人のための日本語' and '北宋官員休假の研究'.

**本学図書館にて職場体験学習・研修**

真志喜中学校、本部町中高一貫教育図書委員会拡大合同研修会、普天間高校図書委員

平成16年7月7日(水)：宜野湾市の真志喜中学校3年生6人(男子)が本学図書館で職場体験学習をした。入所式では生徒の司会により職員と生徒の自己紹介を行なった後、仕事の内容について学んだ。職員から、図書の整理の仕方、図書館利用の仕方、全国大学図書館との提携などの説明を行い、実際に図書の貸出・返却・配架そして書架の整頓などの作業を体験した。また、生徒からは、「この職業につくにはどのような資格が必要か、どういう進路があるか。この仕事をしていて大変なことはなにか」などの質問があり、職員から司書資格について説明をして目標をもってやってほしいと激励した。生徒から「図書館の仕事の大変さを感じることができた」と感想が寄せられた。

平成16年7月30日(金)：平成16年度本部町中高一貫教育図書委員拡大合同研修会のメンバー30名が本学図書館を訪れた。メンバーは本部町内の小学校・中学校・高等学校の図書委員と学校図書館司書、それに町立図書館の職員で構成されている。幅広い構成の図書館関係者のみなさんは、大学図書館の提供するサービスや大学図書館の連携、図書館の規模などに感心していた。

平成16年8月5日(木)：県立普天間高等学校の図書委員20名が訪れた。大学図書館の業務に関心のあるメンバーで、高等学校の図書館との違いなどを学んだ。整理業務や相互貸借の業務などでは、職員にいろいろ質問していた。

**米軍ヘリ墜落により本館事務局  
図書館に仮住まい**

平成16年8月13日(金)に米軍ヘリコプターが本館(1号館)に墜落し、そのことにより本館事務局が機能麻痺。急遽、本館事務局の役員室、庶務課、企画課及び広報課が同年8月18日～12月28日の4ヶ月余、図書館4階の学習室1～3及び展示ロビーに避難を余儀なくされた。事務局の通常業務の回復、さらにヘリ事故に係る政府、自治体、報道関係その他関係団体などの対応等で図書館4階は慌しい状態が続いた。去年の12月に3号館と5号館の間に臨時的プレハブ事務棟が建てられたことに伴い、図書館に仮住まいをしていた事務局が12月28日に移転した。現在は、図書館4階が本館事務局の仮事務所として使われていたことがうそだったかのように落ち着きと静かな雰囲気を取り戻している。



真志喜中学校生の  
職場体験学習



図書館4階の仮事務所

**図書館見学・視察一覧(平成16年度)**

月 日	行事・来館者	内容(目的等)
5月11日(火)	陽明高等学校生84名	図書館見学
6月9日(水)	中部商業高等学校生35名	図書館見学
6月10日(木)	久米島高等学校生50名	図書館見学
6月14日(月)	辺土名高等学校生30名	図書館見学
6月18日(金)	北中城村役場職員3名	図書館視察
7月7日(水)	真志喜中学校生職場体験学習5名	職場体験学習
7月9日(金)	久米島高等学校生30名	図書館視察
7月14日(水)	嘉手納高等学校生57名	図書館見学
7月21日(水)	宜野座高等学校生85名	図書館見学
7月24日(土)	(株)日本設計 環境・設備設計 榎木学氏他3名	図書館視察
7月29日(木)	韓南大学国際交流院 鄭圭泰教授他1名	図書館視察
7月30日(金)	本部町・小中高の図書委員・司書30名	図書館研修
8月5日(木)	普天間高等学校図書委員17名	図書館研修
8月11日(水)	首里東高等学校生100名	図書館見学
10月24日(日)	知念高等学校PTA32人	図書館視察
11月27日(土)	(株)設備研究所 西原賀毅氏他2名	図書館視察
1月6日(木)	大学図書館問題研究会愛知支部 安田多香子氏他4名	図書館視察
2月1日(火)	嘉手納高等学校生4名	図書館見学

平成15年度

図 書 館 統 計

図書館資料構成

(H16.3.31現在)

区 分	種 別	計		合 計 (冊)
		和 書	洋 書	
共通科目	総 記	25,179	3,809	28,988
	人 文 科 学	32,348	5,587	37,935
	社 会 科 学	8,129	1,210	9,339
	自 然 科 学	16,791	2,106	18,897
	計	82,447	12,712	95,159
	英 語	2,140	692	2,832
	独 語	1,906	1,137	3,043
	仏 語	1,804	1,237	3,041
	そ の 他	1,153	185	1,338
	計	7,003	3,251	10,254
保健体育	保 健 体 育	2,031	56	2,087
	教 職 科 目	13,016	1,116	14,132
A	合 計	104,497	17,135	121,632
専門科目	法 学	35,314	12,284	47,598
	地 域 行 政	1,525	248	1,773
	経 済 学	29,361	7,988	37,349
	商 学	22,185	6,912	29,097
	日 本 文 化	32,961	877	33,838
	英 米 言 語 文 化	10,615	15,201	25,816
	社 会 文 化	15,856	4,218	20,074
	人 間 福 祉	3,497	376	3,873
B	合 計	151,314	48,104	199,418
A + B	合 計	255,811	65,239	321,050
郷土資料		23,945	474	24,419
参考図書		26,812	4,279	31,091
学位論文		120	3,270	3,390
科研費研究成果		102	0	102
加除式資料		86	20	106
視聴覚関係資料	マイクロフィルム	(4,038R)	(1,522R)	(5,560R)
		(11,475冊)	(1,894冊)	(13,369冊)
	マイクロフィッシュ	(533枚)	(7,078枚)	(7,611枚)
		(464冊)	(561冊)	(1,025冊)
	スライド	36	1	37
	カセットテープ	1,249	130	1,379
	ビデオテープ	3,825	432	4,257
	フロッピー・ディスク	291	3	294
	ピクチャー・カード	12	0	12
	フラッシュ・カード	9	0	9
	トランスペアレンシー	9	0	9
	コンパクト・ディスク	561	57	618
	レーザー・ディスク	129	4	133
	C D - R O M	187	34	221
	レコード	0	0	0
	ピクチャー・チャート	3	0	3
	電子辞書	8	0	8
D V D	222	19	241	
そ の 他	255	1	256	
合 計	6,796	681	7,477	

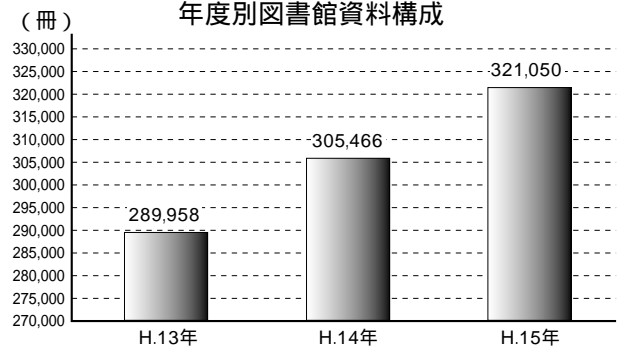
( )内は内数を表す。は「=」を示す。  
マイクロフィルム・マイクロフィッシュは一般図書へ加算される。

学術雑誌等資料構成

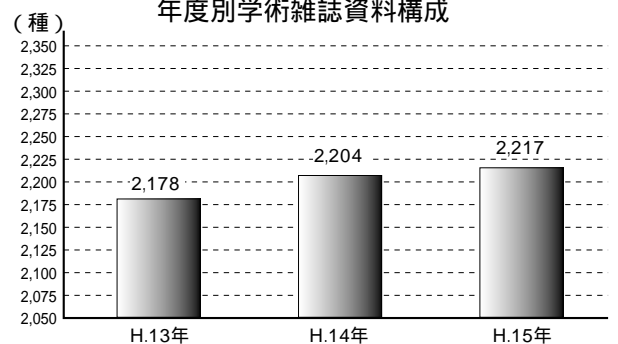
(H16.3.31現在)

区 分	種 別	学 術 雑 誌 数		
		和 書	洋 書	計(種)
共通科目	総 記	575	24	599
	人 文 科 学	130	31	161
	社 会 科 学	65	16	81
	自 然 科 学	75	15	90
	計	845	86	931
	英 語	2	0	2
	独 語	3	2	5
	仏 語	2	3	5
	そ の 他	1	0	1
	計	8	5	13
保健体育	保 健 体 育	19	0	19
	教 職 科 目	50	9	59
小計(A)		922	100	1,022
専門科目	法 律	220	63	283
	地 域 行 政	21	14	35
	経 済 学	223	65	288
	商 学	146	41	187
	日 本 文 化	83	0	83
	英 米 言 語 文 化	54	87	141
	社 会 文 化	79	40	119
	人 間 福 祉	42	17	59
	小計(B)		868	327
合計(A)+(B)		1,790	427	2,217

年度別図書館資料構成



年度別学術雑誌資料構成



# 平成15年度

# 図書館利用状況

## 1 学科別図書館利用状況

学部・学科	項目	図書貸出	
		貸出	人数
法学部	法学科	4,696	2,473
	法律学科	1,765	995
	地域行政学科	2,156	1,243
商経学部	経済学科	4,576	2,609
	商学科	4,472	2,513
文学部	国文学科	1,436	648
	英文学科	2,528	1,029
	社会学科	3,053	1,407
総合文化学部	日本文化学科	6,471	3,578
	英米言語文化学科	4,168	2,221
	社会文化学科	4,135	2,176
	人間福祉学科	8,392	4,513
小計		47,848	25,405
法学研究科	法律学専攻	271	90
地域産業研究科	地域産業専攻	936	271
地域文化研究科	南島文化専攻	959	391
	英米言語文化専攻	74	31
	人間福祉専攻	570	232
小計		2,810	1,015
その他	専任教員	3,373	586
	非常勤教員等	807	277
	事務職員等	940	563
	研究生	0	0
	科目等履修生等	378	178
	その他講習生	42	25
	学外	210	144
小計		5,750	1,773
合計		56,408	28,193

## 2 学外者の図書館利用状況

項目	合計
他大学学生	7,644
他大学研究者	246
その他研究者	566
研究所員	15
本学卒業生	27,481
専門学校生	4,039
司書講習・その他講習生等	374
一般・その他	36,890
合計	77,255

## 3 文献複写利用状況

項目	件数	枚数	
学内	5,535	38,298	
学外	大学図書館	217	1,825
	その他	1,372	13,304
合計	7,124	53,427	

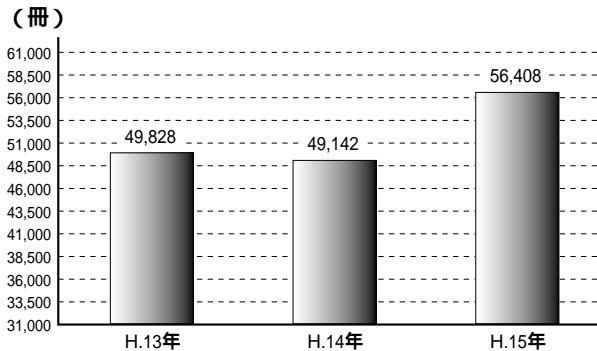
## 4 参考業務状況 (比率)

奉仕区分	学生	教職員	学外者	計	(%)
文献所在調査	587	41	70	698	30.3%
事項調査	245	22	72	339	14.7%
利用指導	717	18	532	1,267	55.0%
計	1,549	81	674	2,304	
比率 (%)	67.2%	3.5%	29.2%		

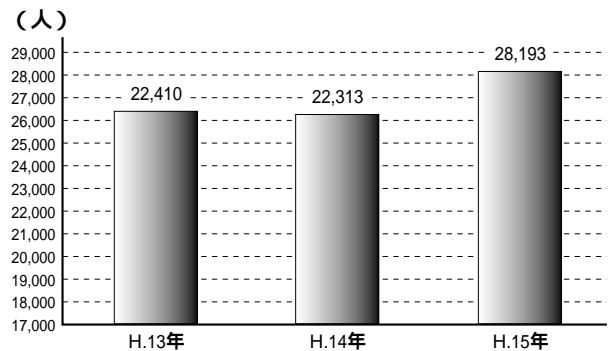
## 5 開館日数・入館者状況

開館日数	312 日
入館者数	382,067 人

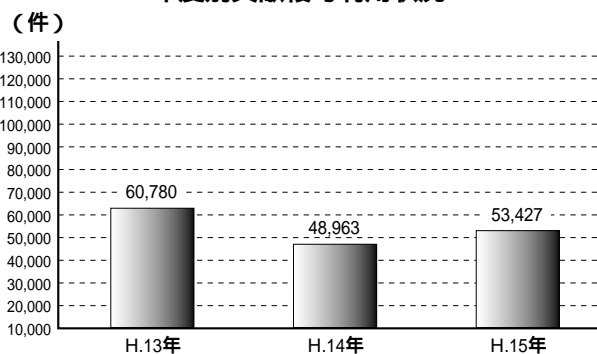
年度別図書貸出冊数



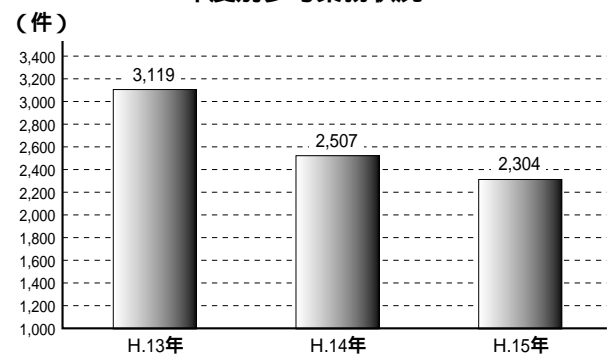
年度別図書貸出人数



年度別文献複写利用状況



年度別参考業務状況

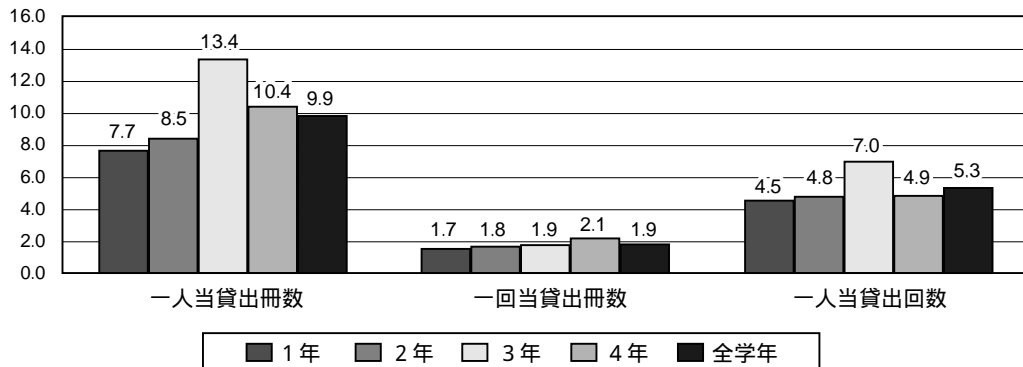


6 学年別図書貸出状況

一部

年次	学生数	貸出冊数	貸出人数	一人当貸出冊数	一回当貸出冊数	一人当貸出回数
1年	1,247	9,664	5,671	7.7	1.7	4.5
2年	1,181	10,039	5,656	8.5	1.8	4.8
3年	1,050	14,101	7,338	13.4	1.9	7.0
4年	1,018	10,611	4,959	10.4	2.1	4.9
全学年	4,496	44,415	23,624	9.9	1.9	5.3

図書貸出状況(学年平均)

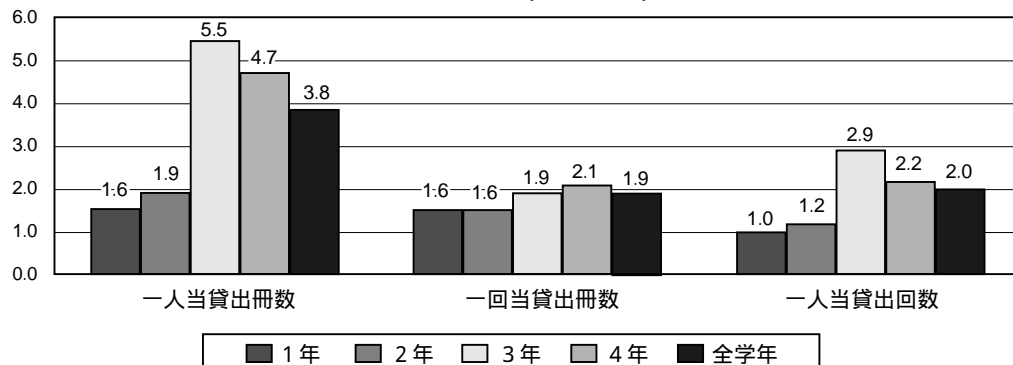


- ・一人当貸出冊数が多いのは3年次で13.4冊。全学年の平均は9.9冊。
- ・一回当貸出冊数が多いのは4年次で2.1冊。全学年の平均は1.9冊。
- ・一人当貸出回数が多いのは3年次で7.0回。全学年の平均は5.3回。

二部

年次	学生数	貸出冊数	貸出人数	一人当貸出冊数	一回当貸出冊数	一人当貸出回数
1年	162	265	164	1.6	1.6	1.0
2年	197	376	233	1.9	1.6	1.2
3年	271	1,501	781	5.5	1.9	2.9
4年	273	1,291	603	4.7	2.1	2.2
全学年	903	3,433	1,781	3.8	1.9	2.0

図書貸出状況(学年平均)



- ・一人当貸出冊数が多いのは3年次で5.5冊。全学年の平均は3.8冊。
- ・一回当貸出冊数が多いのは4年次で2.1冊。全学年の平均は1.9冊。
- ・一人当貸出回数が多いのは3年次で2.9回。全学年の平均は2.0回。

・一人当貸出冊数 = 貸出冊数 / 学生数  
 ・一回当貸出冊数 = 貸出冊数 / 貸出人数  
 ・一人当貸出回数 = 貸出人数 / 学生数  
 ・学生数：平成15年5月1日現在

## 図書委員会の動向

### 1. 平成17年度 図書委員会委員一覧

	学科名	氏名	任期
1	法律学科	脇阪明紀	H16.4.1~H18.3.31
2	地域行政学科	上江洲純子	H17.4.1~H19.3.31
3	経済学科	松崎大介	H16.4.1~H18.3.31
4	地域環境政策学科	源河葉子	H16.4.1~H18.3.31
5	企業システム学科	天野敦央	H16.4.1~H18.3.31
6	産業情報学科	平良直之	H16.4.1~H18.3.31
7	日本文化学科	吉田肇吾	H17.4.1~H19.3.31
8	英米言語文化学科	西原幹子	H16.4.1~H18.3.31
9	社会文化学科	藤波潔	H17.4.1~H19.3.31
10	人間福祉学科	新垣誠正	H17.4.1~H19.3.31
11	図書館学担当教員	山口真也	H17.4.1~H19.3.31
12	図書館長	稲福日出夫	職責委員
13	図書館次長	新川宣安	職責委員
14	図書館課長	金城智子	幹事

### 2. 平成16年度図書委員会開催状況

第1回 平成16年6月4日(金) 図書館会議室  
報告事項

- (1) 平成16年度図書委員会構成について
- (2) 平成15年度図書費執行状況について
- (3) 平成15年度図書及び学術雑誌資料構成一覧について
- (4) 平成15年度図書館利用状況
- (5) 平成15年度学外者の図書館利用カード申請者集計について
- (6) 平成15年度指定図書申請状況について
- (7) 坂出祥伸関西大学教授からの道教関係法具寄贈について
- (8) 平成16年度図書整備計画書提出状況について
- (9) 平成16年度新入生図書館利用オリエンテーション実施状況について
- (10) 平成16年度図書の発注業者について
- (11) 私立大学図書館協会西地区部会2004(平成16)年度第1回九州地区協議会及び第55回九州地区大学図書館協議会について
- (12) 文献検索ガイダンス(大学院生・学部生対象)について

#### 審議事項

- (1) 委員長に事故あるときの職務代行者の選出について
- (2) 平成16年度論文エッセイの募集について
- (3) 「図書館文献複写規程」の一部改正(案)について
- (4) 平成15年度貴重図書受入リストについて

#### その他

- (1) 障害学生への対応について  
車イス対応機の設置について  
一階入り口の自動ドア化について
- (2) 学外利用者の自家用車乗り入れについて

#### 連絡事項

- (1) 平成16年度図書整備計画書の提出について
- (2) 平成16年度学術雑誌購入希望申請について
- (3) 雑誌廃棄リストについて

第2回 平成17年1月14日(金) 図書館会議室  
報告事項

- (1) 文献検索ガイダンスについて
- (2) 蔵書点検について
- (3) 夏期休暇中における高校生の図書館利用について
- (4) 職場体験学習・研修会について
- (5) 図書館防災訓練について
- (6) 第65回私立大学図書館協会・研究大会について
- (7) 私立大学図書館協会2004年度西地区部会役員会について
- (8) 平成16年度私立大学等研究設備整備費等補助金の交付決定について
- (9) 米軍ヘリ墜落に伴う4階学習室の事務局仮事務所としての使用について
- (10) 平成15年度図書貸出状況について

#### 審議事項

- (1) 平成16年度論文・エッセイの審査について
- (2) 雑誌廃棄リストについて

#### その他

- (1) 非常勤教員の貸出冊数について
- (2) 意見箱の設置について

第3回 平成17年3月9日(水) 図書館会議室  
報告事項

- (1) 平成17年度私立大学図書館協会2004年度西地区部会第3回役員会について
- (2) 平成17年度新入生対象  
図書館利用オリエンテーション実施(4月~5月)について
- (3) 平成17年度文献検索ガイダンス実施(6月)について

#### 審議事項

- (1) 平成17年度私大助成申請学科について
- (2) 平成17年度図書整備計画について
- (3) 「図書館相互利用取扱要領」の一部改正について

## 人の動き

### 1. 定年退職(平成17年3月31日付)

図書館次長 銘苅盛徳  
(再任用職員 平成17年4月1日付 エクステンションセンター副参事)

### 2. 昇任と配置換え(平成17年4月1日付)

職名	氏名	前職名
図書館次長	新川宣安	図書館課長
図書館課長	金城智子	教務課長
図書館運用係長	宮国克枝	エクステンションセンター係長
就職課就職係	比嘉紋子	図書館整理係



# 図 書 館 短 信

## 平成16年度館員の研修・研修会等出張の動静

No.	名 称	期 間	場 所	参 加 者
1	2004(平成16)年度第1回私立大学図書館協議会西地区部会九州地区協議会	2004(平成16)年 4/22(木)	福岡ガーデンパレス 当番校:第一経済大学	館長 稲福日出夫 次長 銘苅盛徳 課長 新川宣安
2	平成16年度第55回九州地区大学図書館協議会総会	4/23(金)	福岡ガーデンパレス 当番校:福岡教育大学	館長 稲福日出夫 次長 銘苅盛徳 課長 新川宣安
3	国立情報学研究所ILLシステム講習会	6/13(木)~ 6/14(金)	国立情報学研究所	係員 比屋根奈津子
4	私立大学図書館協会2004年度西地区部会総会	6/10(金)	大阪国際大学	館長 稲福日出夫 次長 銘苅盛徳 課長 新川宣安 係員 喜屋武小百合 係員 島袋彰 係員 當山仁健
5	沖縄県大学図書館協議会総会・講演会	7/8(木)	沖縄女子短期大学	館長 稲福日出夫 他図書館員
6	第1回教育研究情報大学協同購入機構会議	7/27(火)	アルカディア市ヶ谷私学会館	課長補佐 當銘弘道
7	平成16年度図書館等職員著作権実務講習会	8/4(水)~ 8/6(金)	東京大学	課長補佐 當銘弘道
8	沖縄県大学図書館協議会企画委員会	9/2(木)	琉球大学附属図書館	係員 當山仁健
9	私立大学図書館協会西地区部会2004(平成16)年度九州地区研究会	9/10(金)	福岡ガーデンパレス	係員 笹田章生
10	第65回(2004年度)私立大学図書館協会総会・研究大会	9/17(金)~ 9/18(土)	青山学院大学	館長 稲福日出夫 課長 新川宣安
11	私立大学図書館協会西地区部会役員会	10/8(金)	大谷大学	館長 稲福日出夫 課長 新川宣安 係員 喜屋武小百合
12	平成16年度第4回目録システム講習会(図書コース)	10/27(水)~ 10/29(金)	国立情報学研究所	係員 友利祐子
13	私立大学図書館コンソーシアムに関する説明会	11/15(月)	関西大学	課長補佐 當銘弘道
14	平成16年度沖縄県図書館協会総会・講演会	11/16(火)	沖縄県立図書館	課長 新川宣安
15	N 大学図書館関連事業説明会	12/7(火)	九州大学	係員 當山仁健
16	沖縄県大学図書館協議会講習会	12/9(木)	琉球大学附属図書館	係員 當山仁健 " 笹田章生 " 比嘉紋子 " 友利祐子
17	平成16年度情報処理軽井沢セミナー	12/13(月)~ 12/17(金)	国立情報学研究所及び 国際高等セミナーハウス	係員 當山仁健
18	沖縄県大学図書館協議会企画委員会	2/24(木)	琉球大学附属図書館	係員 當山仁健
19	沖縄県大学図書館協議会講演会	2/24(木)	琉球大学附属図書館	課長 新川宣安 他図書館員
20	窪徳忠先生の蔵書譲受搬送作業	3/3(木)	窪徳忠氏宅	課長 新川宣安
21	私立大学図書館協会西地区部会第3回役員会	3/4(金)	アルカディア市ヶ谷私学会館	館長 稲福日出夫 課長 新川宣安 係員 喜屋武小百合
22	沖縄県図書館協会理事会	3/22(火)	沖縄県立図書館	課長 新川宣安

### 編 集 後 記

今回は、総勢14名の教職員、学生の皆様方にご寄稿頂き、図書館に対する熱いまなざしや、活用の仕方などを語って頂きました。是非、参考にしていただければ、と思います。

盗難が県内外の図書館でも発生しているようです。本学ではそういったことがないよう去年から毎日、館内放送で注意を呼びかけておりますが、残念なことに昨年度は、数件の盗難がありました。利用者の方は、くれぐれも貴重品の取扱いにご注意ください。

去年は、ヘリ墜落事故により今更ながら本学に隣接する普天間基地の怖さを思い知らされた年でありました。例年、年2回実施している図書館の防災訓練にも本来あってはいけない、そういった場面も想定してやらざるを得ませんでした。安全なキャンパスを強く願わずにはおれません。

本学図書館は、40名(派遣職員・学生アルバイト含む)の職員で、平日は、朝9時から夜11時まで、さらに、土・日曜日も平日より少々時間を短縮して学生、教職員、地域の方々にサービスを提供しております。どうぞ、皆さん、それぞれのライフ・スタイルに合わせてご利用下さい。

平成16年10月に財団法人大学基準協会による相互評価に係る本学の実地視察があり、その結果、我が図書館に対する評価は、今後、電子ジャーナルなどの整備が課題としてあげられたものの、新図書館は利

用者の利便を配慮した設計で学生が快適に利用している、開架式の図書、ニューメディア(AVリソース・コーナー)、院生専用室に於ける図書の継続利用サービス、さらに地域住民への開放など、図書館の多機能性及び利便性について高い評価を受けました。大変、嬉しい限りです。

私は、去る3月で、定年を迎えました。在職、約35年の中、8年は図書館勤務で、初めて図書館に配属された昭和63年(1988)の頃は、カウンター前で入・退館者のカバン・手荷物等のチェック、入館者数を手作業でカウント、利用者は、目録カードを一枚一枚めくりながら図書を探す等、まだまだアナログの時代。その後、ブック・ディテクション・システム及びコンピュータが導入されたことにより、これまでの不便さなどは、大幅に改善されました。いまでは、目録カードを一枚一枚めくる、というそういった光景を目にすることは最早できなくなりましたが、いずれにしろ33年前、本学創立(1972年)当初、蔵書4千冊余、広さは現在の図書館(1万㎡余)の70分の1にも満たない大教室程度の小さなプレハブの図書館(室)でスタートしたことと考え合わせると、隔世の感が致します。

これからも、「知の宝庫」=図書館がますます充実・発展することを祈念します。

前図書館次長 銘苅盛徳